

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(6月8日～6月14日)

2021年6月16日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領が、シェイマン大統領官房長と面会し、辞任の申し出を受理。(6/11)
- G7、首脳コミュニケにおいてベラルーシ情勢に懸念を表明。(6/13)
- ベラルーシ外務省、運輸通信省航空局、捜査委員会、国防省、国家国境委員会等の当局が、ライアンエアー機の事案に関する共同ブリーフィングを実施。拘束中のプロタセヴィチ氏が登場して発言。(6/14)

【ルカシェンコ大統領動静】

- 軍産複合体の活動結果と発展の展望に関する報告を聴取。

報告会の席上、ルカシェンコ大統領は、「現下の情勢に鑑みて、ベラルーシ軍の近代的武装の課題は喫緊である。特に武力・治安機関が必要としている種類の装備である。」と述べて、小火器類の重要性を指摘。(6/8 大統領公式サイト)

- ベラルーシ五輪委員会のヴィクトル・ルカシェンコ会長と面会。

ルカシェンコ大統領は今夏の東京五輪への準備状況に関心を示した。ヴィクトル・ルカシェンコ会長は、現時点でベラルーシ人選手が98件の東京五輪出場資格を獲得しており、近くベラルーシ代表選手団の構成を決めることになる旨説明した。

(6/8 大統領公式サイト)

- シェイマン大統領官房長と面会。辞任の申し出を受理。

面会の席上、シェイマン大統領官房長は、ルカシェンコ大統領に対して辞任を申し出た。これに対してルカシェンコ大統領は要旨以下のとおり発言。

「貴殿は何度も辞任の申し出をしたことがあるが、私は同意してこなかった。ただし、いつかはその時が来ることを私は理解している。率直に、貴殿が為してきた全てに感謝している。」

「貴殿が人生の新たな1ページを開くことに賛成する。ただし、どうか遠くに行きすぎないでほしい。貴殿

が必要とされる場所で力を貸してほしい。」

(6/11 大統領公式サイト)

- ベラルーシ・中国産業特区「巨石」の発展に関する大統領決定に署名。

同決定は、同産業特区における5,000万USD以上の規模の投資プロジェクトに対する追加的優遇措置等を規定。

(6/11 大統領公式サイト)

- ヴィテプスク州を訪問。

14日、ルカシェンコ大統領はオルシャ地区を訪問。国家軍需産業委員会の非公開施設である製造技術クラスター「ウスチエ」を視察し、ミサイルの近代化と小火器用弾薬の製造に関してパントゥス同委員会委員長から説明を受けた。

(6/14 大統領公式サイト)

【外交】

- マケイ外相がベラルーシ駐箚の各国大使との会合を実施。会合後、EU代表部並びに米国、英国、スイス及び日本の大使館が共同声明を発出。

同声明の要旨は以下のとおり。

「ベラルーシにおける危機は増大している。反体制派、マスメディア、市民社会及びベラルーシ国内のポーランド人コミュニティを含む社会全体に対する追及が強まっている。」

「外交団は、ベラルーシの憲法並びに基本的権利、自由及び法の支配に関する国際的義務の要請の履

行に関するベラルーシ当局の計画を質した。」
「ベラルーシ当局に対して以下の点に関する国民からの要請に応えることを呼びかける。

- ・民主的運動に参加する全ての者、独立系メディア及び市民社会に対する追跡をただちに停止し、信条・表現・集会の自由への尊重を示すこと。
- ・平和的な抗議活動を行う者及び政治囚に対する恣意的拘束、拷問及び非人道的処遇をただちに停止すること。
- ・政治囚及び不当に拘束された人々を直ちに釈放し、名誉を回復すること、
- ・人権侵害の捜査を遅滞なく実施し、暴力や拷問その他に関わった者を裁判にかけること
- ・欧州安全保障協力機構民主機構人権事務所(OSCE/ODIHR)の監視の下で自由で公正な選挙を実施すべく、信頼に値する包括的政治プロセスを開始すること。」

「外交団はまた、(マケイ)外務大臣に対して、ベラルーシ当局が国内における民主的規範の遵守を確保するための目に見える有意義な措置を取る場合には、各国との二国間関係が肯定的に進展する可能性があることを通知した。」

(6/13 ベラパン通信)

●G7、首脳コミュニケにおいてベラルーシ情勢に懸念を表明。

6月11日～13日に英国コーンウォールで開催された G7 首脳コミュニケにおいて、以下のとおり憂慮が表明された。

「我々は、FR4978便の強制着陸並びに独立系のジャーナリスト及び同人のパートナーの逮捕により示されたように、ベラルーシ当局による人権、基本的自由及び国際法に対する継続中の攻撃を深く懸念する。我々は、制裁を課すことを通じたものを含め、責任を持つ者に責任を負わせ、ベラルーシにおける市民社会、独立のメディア及び人権を支持し続けるべく協働する。我々はベラルーシの現体制に対し、方向転換し、欧州安全保障協力機構(OSCE)のモスクワ・メカニズムの下での独立専門家ミッションの全ての勧告

を履行し、社会の全部門と意味のある対話を開始し、新たな、自由で公正な選挙を行うよう求める。」

(6/13 ベラパン通信)

【内政】

●ベラルーシ外務省、運輸通信省航空局、捜査委員会、国防省、国家国境委員会等の当局が、ライアンエアー機の事案に関する共同ブリーフィングを実施。拘束中のプロタセヴィチ氏が登場して発言。

プロタセヴィチ氏の発言要旨は以下のとおり。

「捜査当局との間でいかなる取引も、それに類似する物事も、自分はしていない。」

「国営 TV 局 ONT のマラコフ氏によるインタビューも含めて、自分(プロタセヴィチ)によるいかなる活動への参加も自由意志によるものである。自分は誰からも捜査当局との協力を強制されたりしていない。

「捜査当局との協力という自分の行動は、自分がいかなる損失を(体制としての)国家のみならず国全体にもたらしたかを、自分自身が理解していることと関連している。状況を正すために自分にできることは全てやりたい。」

「自分は誰も裏切らないし、誰かを差し出すこともしない。自分は捜査当局と自分の国の助けになっているし、今後も助けになる意向だ。」

「(ルカシェンコ大統領自らが拘置所でプロタセヴィチ氏を殴打したという噂を否定し、同情報についてのベラパン通信からの質問に対して、)質疑応答を冗談から始めてくれたのは良かった。」

「体調はすこぶる良好で、何の不満もない。そのことを疑う者がいるなら、捜査当局の許可があれば、独立した鑑定を受けても良い。

「(自身の交際相手の)サペガは(今回生じた)状況の人質となった。」

「自分の両親はポーランドに所在していて、情報の真空地帯にいる。想像してみしてほしいのだが、もしあなたの方の両親が、実際はそうではないのに、息子が殴打されていると言われたらどういう反応をするだろうか。」

「自分の両親は今、利用されているに過ぎない。彼ら

の背後には特定の政治家達がいる。」
プロタセヴィチ氏はまた、両親が安全な形で帰ってこられることに関して確信を表明した。
(6/14 ベラパン通信)

げないこと及び政治囚を釈放することを要求。
(6/13 テレグラフ)

(了)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表、米上院議会の外交委員会にビデオ会議方式で出席して発言。

上院議員らは、対ベラルーシ制裁を強化し、制裁対象を石油精製分野及びカリウム肥料の輸出にも拡大することを呼びかけた。フィッシャー駐ベラルーシ米国大使は、ベラルーシ当局の「強硬姿勢の代償を高める」制裁に関する大統領令が準備されていると述べた。

チハノフスカヤ氏は、ベラルーシ・カリ社及びモズィリ石油精製工場を含む、ルカシェンコ体制を資金面で支える協力者に対しても制裁を及ぼすべき旨述べ、外国からの資金援助の元を特定して制裁を科すべきと呼びかけた。チハノフスカヤ氏はまた、民主化後のベラルーシに対するEUの包括的支援計画に基づいた支援パッケージを策定するよう米国に対して呼びかけた。

(6/9 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ民主勢力代表、ベルリンで独外務省及び首相府の幹部と会談。

会談では、ライアンエア機がミンスクで着陸を余儀なくされた事案に対する然るべき対処やEUの対応が議論された他、ベラルーシの医師、労働者及び独立系メディアに対する支援プログラムについて協議された。

(6/11 ベラパン通信)

●ポーランド、リトアニア及びウクライナの3か国で、抗議集会参加者が対ベラルーシ国境で同時に座り込みを実施。

集会参加者は、EUに対してルカシェンコ政権に対する強力かつ大規模な制裁の導入を急ぐよう求めるとともに、ベラルーシ当局に対しては国民の出国を妨